企画展　「石の世界と宮沢賢治（仮称）」企画概要

１．日程：2014 年 4 月下旬～6 月上旬（約 60 日）
２．会場：上野　国立科学博物館　企画展会場
３．主催：国立科学博物館、岩手大学
４．協力：宮沢賢治記念館、石と賢治のミュージアム、奇石博物館、
　　東大博物館、国立教育政策研究所
５．担当者：地学研究部　横山一己、加藤碩一（産総研）、宮脇律郎、佐野貴司

６．展示趣旨

国立科学博物館は、明治 10 年の設立当初、地学・動物・植物の標本を学校に配布する役割がありました。当時は、カラー図鑑がないため、各地の学校に標本を配布して実物で勉強する必要がありました。当館の自然系の展示物は、明治22年に帝国博物館に新設の天産部に行き、関東大震災後に当館に戻って、現在も天産部の台帳と一部の資料が当館に保管されています。

宮沢賢治は、小学校 4 年頃(明治 39 年)から石に興味があり、中学 1 年には、岩石・鉱物の授業（博物）を受けて本格的に資料採集を行っています。盛岡高等農林学校では地質学を専門として学び、彼の文学作品の多くに鉱物名、岩石名、地層名などの専門用語が使われています。石(特に岩石と鉱物)を小学校当時どこで学んだか不明ですが、農林学校では、外国製を含め多くの標本があり、それらの標本は現在も岩手大学で保管されています。また、東京に来た時に、当時の帝室博物館の岩石・鉱物標本を見学しています。

宮沢賢治の作品は、多くの解説がされてきましたが、使われている学名などは専門的なものが多く、十分な説明がなされているものではありません。2009 年から 2010 年に宮沢賢治の全集とその辞典が発行されています。その中には、鉱物種 70 以上、岩石名 50 以上、火山名 30 以上、地学用語 70 以上の専門用語が含まれています。当館には、昨年度千葉大学薬学部から明治時代の岩石標本 120 点、鉱物標本 160 点が寄贈されました。この機会に、明治から大正時代の標本についての展示を行うとともに、多くの人の興味のある宮沢賢治の文学にあらわれる岩石・鉱物資料を展示することの意味があるものと考えています。この企画展は、岩石・鉱物・化石を文学作品にあわせて展示するだけでなく、宮

沢賢治の採集した岩石や作成した地質図も展示し、当館に保管してある帝室博物館の地学関連資料なども展示して、当時の状況を理解してもらうものです。この企画展を行うことで岩石・鉱物に広く興味をもってもらえればと考えます。

７．展示内容、主な展示品

<u>はじめに：入口導入部</u>

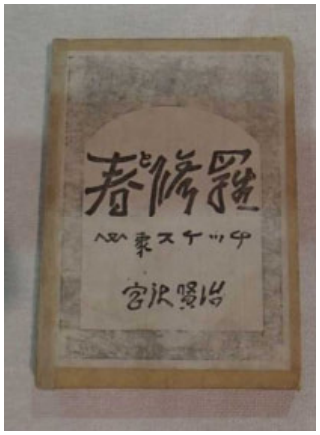
宮沢賢治作品の中にいかに多くの地学用語が使われているかを紹介

【主な展示物】

◆宮沢賢治の写真と文学作品の展示

宮沢賢治全集１６巻、初版本の「春と修羅」、注文の多い料理店

アメニモマケズ（デジタル版）　など



◆宮沢賢治の文学にいかに多くの地学用語が使用されているか（パネル展示）

①岩石、鉱物と使用例、②火山用語と使用例、③地質用語と使用例

◆入口床面展示：現代の東北の地質図と宮沢賢治関連の場所

イーハトーブ（岩手県）内の位置関係を知ってもらう。

<u>ゾーン１：宮沢賢治の略歴と国立科学博物館の資料との関わり</u>

地質学者でもある宮沢賢治が上京した際にみたであろう博物館の資料。この資料は、二つの国立博物館の間を行き来していました。宮沢賢治の略歴と、二つの国立博物館の歴史について紹介します。

【主な展示物（パネル展示）】

◆宮沢賢治の略歴

◆国立科学博物館と東京国立博物館の歴史、標本資料の変遷

ゾーン２：江戸から明治の岩石・鉱物名の変遷

江戸末期から明治初期の、日本の地質学黎明期について、当時の「図鑑」や、資料の目録を通じて紹介します。

【主な展示物】

◆江戸時代の書籍

本草綱目金石部目録第八巻　金石之一、石之二　（東大）

和漢三才図会　五十九金類、六十玉石類（東大）　など

◆明治時代の書籍と博物館の列品目録（書籍）

官版地質学　一　文部省　瓜生寅　壬申初冬

金石学　和田維四郎訳　博物館　明治9年

博物館列品目録天産部三鉱物類四地質類　博物館　明治13年　など

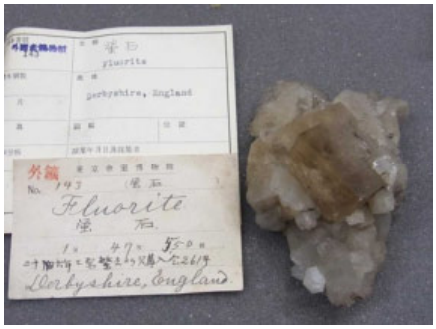
ゾーン３　教育用標本と天産部標本

宮沢賢治が帝室博物館を訪問した時代の資料を紹介するとともに、教育博物館の役割の変遷について紹介します。

【主な展示物】

◆天産台帳（国立科学博物館）

◆明治初期の岩石・鉱物標本



ゾーン４：宮沢賢治の小学／中学時代の教育背景

当時の学校における教育状況について、使用されていた教材などを通じて紹介します。

【主な展示物】

◆宮沢賢治が小・中学で利用した明治末−大正の教科書（神保小虎）
神保小虎の教科書に対応する鉱物標本セット　など

ゾーン５：盛岡高等農林学校時代に学んだ当時の標本・教科書など

盛岡高等農林学校（現在の岩手大学農学部の前身）で、宮沢賢治が学んだ当時の教育について、教材などを通じて紹介します。

【主な展示物】

◆島津製作所、金石舎＆教育品製造合名会社などの標本セット
鉱物結晶軸模型（金石舎製）明治43年（1910）購入
宮沢賢治が学んだ書籍

◆宮沢賢治の採集した岩石標本や作成した岩石薄片　など

ゾーン６　宮沢賢治が東京上京中に見たと思われる標本

宮沢賢治が実際にみた博物館の資料はどういったものだったのでしょうか。当時の博物館で保管していた資料を紹介します。

【主な展示物】

◆金石舎の宝石標本セット　他

ゾーン７：宮沢賢治が高等農林時代とその後の教師時代に関与した地質図

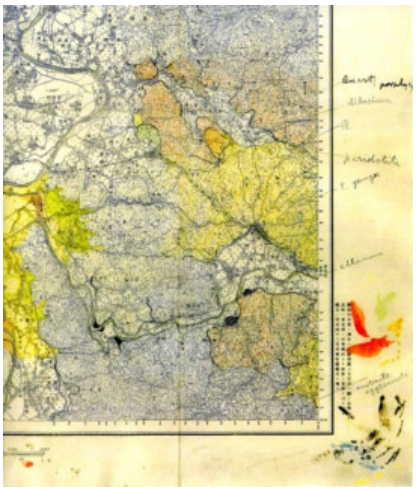
宮沢賢治は岩手県内の地質図を多く残しています。「地質学者」宮沢賢治の残した精密な地質図を紹介します。

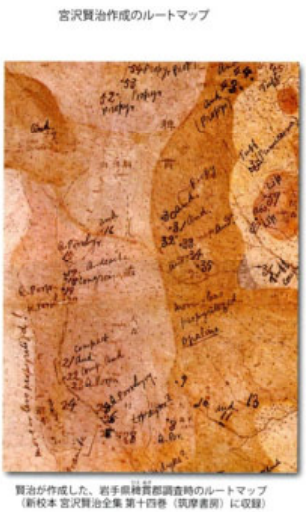
【主な展示物】

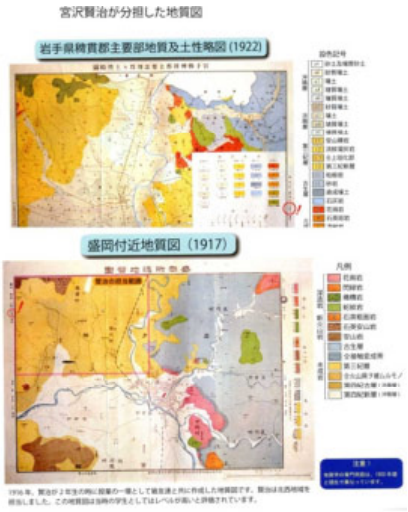
◆盛岡付近地質図（１９１７）

◆新たに発見された賢治手書きの地質図

◆花巻西部のルートマップ　　など







ゾーン８：宮沢賢治作品の中の岩石・鉱物

宮沢賢治の作品の中にでてくるさまざまな岩石や鉱物などの名前。これらを実際の標本で紹介します。

【主な展示物】

◆「イギリス海岸」の中の『ミルク化石』

◆「気のいい火山弾」中の『火山弾』

◆「十力の金剛石」中の宝石　　など

ゾーン９：その他の文学作品中の鉱物、岩石、化石地学器具の展示

　そのほかにも、宮沢賢治の作品の中には様々な地学関係の用語が登場します。それらを実際の資料で紹介します。

【主な展示物】

◆赤鉄鉱、水銀、琥珀など

ゾーン10：石灰に関する業績

　あまり知られていませんが、宮沢賢治はある東北採石工場という石灰工場で技師として働いていました。宮沢賢治が晩年に残した、石灰に関する業績について紹介します。

【主な展示物】

◆東北採石工場の写真

◆石灰資料

◆宮沢賢治編集の石灰の宣伝新聞など